

第3回市島地域市立小学校統合準備委員会 会議録

◇開 会 令和3年11月 4日(木) 午後 7時30分

◇閉 会 令和3年11月 4日(木) 午後 9時30分

◇会 場 ライフピアいちじま研修室

・副委員長 木寺 章

・委員 青木 修 余田 義信 坂谷 高義 淵上 利美
 吉見 祐也 山邊 敦 井上 直人 荻野 有希
 由良 英樹 加藤 宏生 長井 勇人 高見 忠寿
 足立 幸司 淵上 智帆 宇佐美大介 坂谷 幸久
 吉井 公乃 足立三友紀 四方まどか 蘆田 勤
 吉見 典彦 足立 圭造 内田 順子 中澤 正樹
 山口 滋唯 余田 淳子

〔事務局〕

・教育長 片山 則昭
 ・教育部長 藤原 泰志
 ・教育部次長兼学校教育課長 足立 和宏
 ・教育部学校教育課副課長 谷川 知美
 ・教育部学校教育課指導主事 足立 浩基
 ・教育部学事課長 井尻 宏幸
 ・健康福祉部子育て支援課長 荒木 和美
 ・健康福祉部子育て支援課
 子育て支援係長 芦田 将司
 ・教育部教育総務課長 足立 勲
 ・教育部教育総務課学校統合準備係長 船越 正一
 ・教育部教育総務課指導主事 小田 敏治
 ・教育部教育総務課主事 畑中 直之

次第

(足立教育総務課長)

1 開会

皆さん、こんばんは。丹波市教育委員会教育総務課長の足立です。夜分お疲れのところにもかかわらず、御出席いただきありがとうございます。

定刻となりましたので、ただいまから第3回丹波市市島地域市立小学校統合準備委員会を開会いたします。

本日は、川上委員長が急遽、出席できなくなりましたので、統合準備委員会設置要綱第4条第4項の規定により、木寺副委員長に委員長の職務を代理いただきます。

それでは、会議を始める前に、委員の皆様へ配付資料の確認と注意事項がございます。

まず、本日の資料につきましては、事前に郵送させていただいております。お忘れの方はございませんでしょうか。

それでは、次に、この委員会についての注意事項です。本日の委員会は公開して開催するため、傍聴席を設けております。委員会の会議録を作成いたしますので、録音させていただきます。会議録作成の関係から、発言の際は、マイクを持ってまいりますので、お名前を発せられてから御発言いただきますようお願いいたします。会議録は、後日、教育委員会ホームページに掲載いたします。

教育委員会、またはこの委員会からの情報発信、記録のために写真撮影をさせていただく場合があります。また、本日は、報道機関の方も来られてお

りますので、写真撮影される場合がありますので、御了承ください。

次に、傍聴席の皆様にお願ひです。本会議は、傍聴規則を定めていますので、規則に基づいて傍聴いただきますようお願いいたします。委員会の資料を傍聴者用として準備いたしておりますので、御覧いただきながら傍聴いただければと思います。

次第

(足立教育総務課長)

2 あいさつ

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。開会に当たりまして、丹波市市島地域市立小学校統合準備委員会、木寺副委員長様から御挨拶いただきます。

(副委員長)

皆さん、こんばんは。ただいまお聞きになったとおり、急遽でございますけれども、ピンチヒッターということで、よろしくお願ひいたします。

今日は、第3回目の統合準備委員会ということでございます。今まで皆さんともたくさん協議していただきまして、いろいろ意見も出していただいたところなんですけれども、まだまだというところがあるかもしれません。今日は、この後、自由討議ということになっておりますので、そこでもまた、もし意見があるようでしたら、意見を出していただきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

次第

(副委員長)

3 自由討議『市島地域における小学校統合の在り方について』

それでは、早速ですけれども、3番目の自由討議『市島地域における小学校統合の在り方について』ということなんです、これにつきまして、第2回に引き続き、市島地域における小学校統合の形について、前回、事務局より提案のあったパターンを中心に議論いただきたいと思ひます。

議事に入る前に、事務局のほうから資料の説明がありますので、よろしくお願ひいたします。

(船越教育総務課学校統合準備係長)

失礼します。学校統合準備係の船越と申します。よろしくお願ひいたします。

それでは、私のほうからは、第2回統合準備委員会の意見のまとめということで説明をさせていただきます。資料1ページを御覧ください。

こちらは、前回議論いただいた第2回統合準備委員会の意見のまとめになります。上から順に説明をしていきたいと思ひます。

まず、5校から1校のパターンでは、施設整備等が伴うため、時間がかかり過ぎるといふ御意見や、最終的には1校になることを前提に協議を行うべきであるといふ意見を頂いております。その下、次に、5校から2校のパターンでは、40人近くのクラスが生じることから、教室が非常に狭くなり、学校運営に課題が生じるといふ御意見や、ヒアリングでの意見が多かった、こども園単位の統合が理想であるといふ意見がございました。

次に、5校から3校のパターンでは、5校から2校にする際に増築を行っても、数年後に空き教室になってしまうのは経済的ではないため、まずは5校から3校の統合が望ましい。また、男女の偏りが見られる年代もあるため、早期に統合ができる5校から3校が望ましいといふ意見がございました。また、三輪地区のみ統合の対象外となっているため、三輪小学校区の委員からは、三輪小学校だけが後に加わるといふ形で統合する場合は既存コミュニティの中に入りにくくなるということが懸念される。最終的には1校になるという前提で、過渡的な統合であれば、三輪としては3校の統合は受け入れやすいと思ふといふような意見が寄せられております。

一方で、三輪だけが統合しないという形になりますが、他校と連携し、交流を深めるなど、学校経営上の努力で対応することも可能であるという意見も頂きました。

ほかには、前回の資料で挙げたパターン以外の組み合わせの統合もあり得るのではないかという意見もございましたが、こども園単位の希望に添えないことや、隣接していないということから、現実的ではないのではないかとこの御指摘もございました。

また、段階的な統合に関する意見では、統合準備委員会を開催している今が市島地域の教育環境を良くする議論を行うチャンスなので、児童が少なくなるのを待って段階的に統合するのではなく、新しい校舎等が整備されたすばらしい学校ができるように、将来の形を考えながら、統合を進めるべき。コロナ禍の影響を受け、出生数の減少が丹波市でも予想されるため、5校から1校にすることを前提に協議すべき。幼小連携教育と小中一貫教育のどちらを重要と考えるのかで今後の議論が変わってくるのではないかと。最終的な統合の形を意識し過ぎると、統合協議のスピード感がなくなってしまう。将来的に1校になることを見据えて、統合を行う場合は校名や校章はそれほどこだわらなくていいのではないかとこの御意見を頂きました。

その他の意見では、分校制を設けることで、増改築も不要で、各小学校を存続させながら少人数を解消できるという御意見や、校舎見学の提案、また、校舎などハードの議論も大切だが、学級規模や幼小連携など、ソフト面を重点的に考えないといけないという意見もございました。

簡単ですが、以上が第2回の統合準備委員会の意見のまとめとなります。以上です。

(副委員長)

ありがとうございました。第2回の統合準備委員会での意見のまとめということで、ただいま発表いただきました。皆さんの中で、この意見のほかにも何か意見がございましたら、発言をお願いしたいんですけども。ここはもうちょっとどうかとか、ここはもう少しどうですかというようなこともあればお伺いいたします。

今まで、数々の意見を出していただいておりますので、もうほぼ出尽くしているような気もするんですけども、どうですか。もしないようでしたら、次のほうに行きたいと思っておりますけれども、よろしいですか。

それでは、次の自由討議のほうに移りたいと思っておりますが、今後のいわゆる方針も含めまして、先ほど事務局より説明があったことも含めてなんですけれども、いろんなパターンがあるわけですので、今後の進め方などに行きたいと思っておりますが、どうでしょうか。自由ですから、一応、自由に言ってもらってもいいんですけども、皆さんの中でも大体、もうこの統合のことについて、数々意見を出されて、大体の目標が決まってきたんじゃないかと私は感じるんですけども、その辺も含めて言ってもらえればありがたいです。

(足立教育総務課長)

先に2ページのほうの説明をさせてもらいましょうか。

(副委員長)

そうですね。すみません、そしたら、2ページの統合準備委員会の今後の流れということで、ちょっと説明をお願いします。

次第

4 今後の運営方法について

(船越教育総務課学校統合準備係長)

失礼します。統合準備係長の船越です。そうしましたら、2ページの説明をさせていただきたいと思っております。こちらについては、皆さんから頂いた御意見を基に、今後の流れとして考えられるパターンを図にしたものになります。

まず、1番目のパターンは、段階的な統合を行わず、5校を1校にし、新たな小学校を作るパターンです。これまで説明したとおり、施設整備等に時間を要し、早期の統合には対応はできません。

その次、上から2番目の流れは、段階的に5校を1校にすることを前提に、統合の場所、統合の時期などについて協議し、それらの決定後、段階的な統合について統合対象校区ごとに分かれ、協議を行っていくパターンです。着地点が分からないと判断ができないという意見があったため、1校になる際の将来像を、まず先に決定することを重視したパターンになります。ただし、5校から1校に関する事項の協議が決まってから、段階的な統合に関する協議を開始するため、一番上のパターンほどではありませんが、時間を要し、令和5年や令和6年の早期統合は望めない可能性が高いこととなります。

その下の二つですね、黄色の部分の流れについては、現在、複式学級等が生じている小規模校の統合を早期に実現することを最優先に考える統合です。右側に進んで、上側のパターンは、対象校区ごとに協議を進めつつ、5校を1校の議論を並行して進めるパターンです。対象校区での協議が中心になりますが、定期的に本日のような全体会を行い、5校から1校の協議も並行して進めていきます。その下側のパターンは、対象校区ごとに協議を開始しますが、5校から1校の協議は一旦、休止しまして、統合後に児童数が減少した場合の状況により、再度、統合協議の再開を検討するパターンとなります。この中で唯一、5校から1校の議論を行わないパターンとなります。

その他の考え方もあるかもしれませんが、これまでの意見を参考に、これらのパターンを提出させていただきましたので、確認していただきまして、この後、協議を頂きたいと思います。

(副委員長)

ありがとうございました。皆さん、どうですか。この準備委員会の今後の流れという図を見ていただきまして、大体、御理解は頂いたんじゃないかと思うんですが、何かここで意見等ございましたら、よろしく願いします。

ないようですね。ありませんか。

ないようですので、ちょっと私のほうから、私、鴨庄なんですけど、鴨庄から代表ということでもないですけども、地区のこともありまして、ちょっと一言、皆さんにお願いなんです。私の考えをちょっとお伝えしたいと思えます。

どこの地域も、学校がなくなるというのは、これはもちろん寂しいことでして、皆が望んでいることではありませんが、これはもう時の流れといいいますか、そういうことで、こういうことになってきたわけです。地域にとって、子供というのが、やっぱり宝ですね。子供が宝というのは、ダイヤモンドなんです。ダイヤモンドの原石ですね。だから、それをどう応援するかは、地域の在り方だと私は考えておりまして、その応援することが子供たちの未来への一つの投資になるんじゃないかというふうにはちょっと考えております。

子供たちの将来を、今、こうして大人たちのエゴといいますか、地域のエゴを前に出して、時間をかけるということは、子供たちにとっても必ずしもプラスにはならないというふうには私は考えております。地域から学校がなくなるというのは、地域にとって大変大きな出来事なんです。今までにも中学校の統合とかありましたけれども、同時に、学校がなくなるということは、地域にとって大きな覚悟が要るわけですね。地域をこれからどうしてやっていくか、それはもう皆さんもお分かりかと思いますが、地域や親同士の連携で協力することによって、そういった問題は、私は解決できると考えております。地域同士、親同士、PTAも連携協力がもちろん必要ですから、そういう方向で、市島の新しい教育環境を作ってやらなければならないんじゃないかと、これを機会に思っているわけでございます。

今日は、ちょっと私の立場上で、考えなどを話をさせてもらいましたけど

も、皆さんもそれぞれ地域で考えがあると思います。今後の進め方として、そういったことも相談しながら、各地域で相談なり話し合いを深めていただけたらというふうに思っております。

そういうようなことで、この前から大分話も進んでるわけですが、今後の在り方として、今後の運営方針ということで、私の提案ですけれども、5校を3校、例えば、そういうふうになるわけなんですけれども、とりあえずその辺りで、各地区でお話をしてもらったりすることもいいんじゃないかと思うんですが、どうでしょうか。

(賛成の声)

(副委員長)

ありがとうございます。ただいま、賛成という意見を聞かせてもらいました。皆さん、どうですか。先ほど言いましたように、これからの地域もやっぱり、合併とはいきませんが、地域同士の連携、親同士の連携がないと、この問題は解決しませんと私は思います。いつまでも引っ張っていることは、やっぱり子供の夢や希望を押し潰すんじゃないかと、そんな気がしております。

今、賛成の声を頂きました。皆さんどうですか。はい。

(委員)

すみません、ちょっと今、何のことで言われているか分かってなくて。ここでもう話し合いを今日、終わりで、自分の地域に持って帰るということで合っていますか。

(副委員長)

大体そういうことです。今、ここで決めてしまうということではなく、地域ごとで、例えば、こちらとこちら、この図のとおりですね。一番下の5校を三つにするというようなことであれば、その中でもう一度話をさせていただいたら、そのほうがより分かりやすいんじゃないかと。日にちとか時間とかは、そこで決めていただいて、地域ごとに相談をしていただくということなんですけど、いかがでしょうか。

(委員)

分かりました。5校を3校にというのは、5校を3校にじゃないというところもあっていいという話なのか、5校を3校というのが、この前の意見で出ててということで、それをベースに考えてということなのか、そこをちょっと教えてもらっていいですか。

(副委員長)

一応、私の立場としては、5校を3校にというベースはベースとして考えていただきたいと思います。

(委員)

ありがとうございます。

(副委員長)

よろしく申し上げます。
ほかの方、どうでしょうか。どうぞ。

(委員)

確認なんですけれども、今、委員のほうからありましたように、前回のヒアリングと同様に、各地区で、その場合、前提として、この1校を目指すのかどうかというところが、私としては、今、前回の意見とかぶりますが、具体的なことではなくて、最終的に1校を目指すんだということを共通理解をした後に、そのようにされてはどうかという意見でございます。

(副委員長)

分かりました。ちょっとその辺りが漏れておまして、最終的には、何年か先、かなり先になるかも分かりませんが、市島地域の教育環境ということ

では、一つにするという。これ、皆さんのこの前のヒアリング、各地区回らせてもろうた中では出ておりましたし、そういうことだと私は判断しておりますが、どうですか。それを前提に、とりあえず今、地域ごとに話をさせていただいてという方向で行きたいと思うんですが。いかがですか。

(足立教育総務課長)

すみません、事務局の教育総務課の足立です。今のこの2ページのほうで、今後の流れとして提案させていただいていますのは、この統合準備委員会の議論の枠組み、協議の枠組みとして提案をさせてもらった中で、5校を1校にという上二つ、これをずっと目指すのであれば、この全体の協議が今後必要ですよというところです。

下側は、第2回、あるいは地域ごとのヒアリングの中で出ている5校を2校に、あるいは、5校を3校にという統合を目指すのであれば、その過程で5校を1校にするのかしないのかは、ちょっと別として、まずこの5校を2校に、あるいは5校を3校にという形で統合を目指すのであれば、この全体での協議というよりも、対象となる校区が集まって協議をされるほうが議論がスムーズではないですかという提案で、今後の運営方法ということ、事務局としては御提案を申し上げております。

ですので、この5校を2校というのは、前のパターンでいいますと、竹田・前山で一つの協議をしてもらい、吉見・鴨庄・三輪で一つの協議をもらおう。これが、5校が3校になったとしても、今の吉見・三輪・鴨庄での協議は一旦必要だというふうに思います。三輪は何も協議に入らないということではなしに、過渡期の措置として3校になるというようなこともあろうかと思っておりますので、こういった該当校での協議に分かれて、部会といいますか、そういった流れで協議をしていただけるのはありかなということ御提案をしております。

その中で、下側は、先ほど足立校長言われたように、5校を1校にする統合を目指すのか、いやいや、それは、この2校、3校だけの協議をするのかというのは、またここで分かれてこようかというふうに思います。ですので、協議の枠組みとして、こちらのほうは提案をさせていただきました。もちろん、将来的に1校を目指すのか目指さないのかというのは、全体の中で引き続き協議は必要だというふうに思っております。以上です。

(副委員長)

ありがとうございました。

(委員)

失礼します。今、事務局のほうではそういうふうにおっしゃったんですけども、前提としてというか、最終的には1校になるんだということがあれば、前回のときに、三輪の地区の方もおっしゃったんですけど、最終的に5校が1校になるならば、5校が3校になったときにも納得ができますということをおっしゃったようなことがありました。最終的には、市島として、この子供たちの教育環境を考えるんだという考えがあるかないかだけは、はっきりとさせておく必要があるのではないかと考えています。その確認さえできればしばらくは、この議論をしようとは思っていません。なぜなら、今は現在の問題を早く解決していこうとすることが、より大切なことになっているからです。ただし、前提としては、市島として、子供たちの教育環境をどう考えるのかというものがあって、最終的には、それは、何年先になるか分からないんですけども、1校なんだという考えがあるかないかは、前提として大きく違うんじゃないかなと思っております。

皆さんおっしゃるように、どの地域でも、自分のところの地域から学校がなくなるということ、そんなことは、できたらしたくない。だけど、現実、子供たちの教育環境を考えるときに、どうしようかとこれまでからずっと協議してきたものですので、そのことは確かめておくべきかなと思っております。

以上です。

(副委員長)

ありがとうございます。

(委員)

私の解釈は、このような解釈です。下の今後の流れの表を見まして、下の黄色の二つ、というのは、こども園単位の幼小連携を重視した流れになると思っています。ここの最終的な目標というのは、竹田・前山、それから、鴨庄・吉見・三輪、そういう枠組みだと捉えています。

だから、これが今、私たちが話をしているところの、私は最終だと思っていて、それが1校になるかどうかというのは、その動向を見ながら、今後協議を続けていくという形で、今、この場で1校にするかどうかという協議をするような認識では、私は持っておりませんでした。

(副委員長)

ありがとうございます。ただいまの意見では、もちろん、最終的には、何年か先には一つということになるかという案もあるんですが、今、その案をというよりも、各地域で、例えば、その黄色い部分のところを、まず第一段階として相談をしようじゃないかと、各地域で相談をしていただきたいと。その先には、行く行くは、市島全体の話になるかという意見でございます。

そのほか、皆さんどうですか。できるだけ早くという皆さんの意見を取り上げて、尊重するというパターンでいくと、やっぱりどうしても、一番下の5を3にするとかいう形をとるわけです。今からでも、大体、令和6年頃までかかるとのことなので、その辺りも踏まえての話でもあるんですけども、今まで数々、皆さんと議論をしていただきまして、今回、こうして、ここまでは一応、話が進んできたわけです。先ほども言いましたように、もうちょっと踏み込んで、各地域ごとで、そういう話もしていただきたいなというふうに思います。

そのほかにございませんか。

(委員)

下の、とりあえず、2校か3校、それは早くするほうが良いんですけど、当然、その先のことを考えたら、それはずるずる行くということは明白ですね。

例えば、一番上の5校を1校という案、用地の問題も予算の問題も、全てクリアになって、じゃあ、もう来年できますよということだったら、そっちのほうが良いと思われているのか、いやいや、結局、少なくともこの学校で残していくほうが良いと思われているのかによって、そこがどうなのかなど。やっぱりそこは、人によって違うのかなというふうに思うんですけど。だから、発展的な統合を目指すのか、消極的な統合を目指すのか、1校になるという話なんですけどね。その辺りで多数決とかになったら、消極的になるのかなみたいな、僕が思いがあって、私はさっき、市島の教育を考えたときに、新しい学校を作るといような、要するに活性化といようなことを今までの流れの中で思っていたんです。

だから、例えば、5年先に用地買収とか、予算のほうもありますので、市にとっては、そんなことは大変な仕事なんで、どう思われるか分からないんですけど、だから、そういう発展的な1校であるのか、僕はそういうふうに思って、そして、要するに、段階的な統合をするのが一番いいのかなというふうに、私なりに思っています。

(副委員長)

分かりました。

(委員)

準備委員会の最初にもらった資料に、結局、2クラスぐらいが適正と書いてあったと思うんです。今、その辺りは、何をもって適正と言われているの

か。文科省で言われているのか、ちょっと分からないんですけど、そこを目指す、子供の教育環境を良くするというのであれば、そこを目指したいのかなと思っていました。

そこを目指すのであれば、結局は、行く行く1校にするという感覚なんだろうなと思っていました。ただ、先ほど先生言われたのは、多分、消極的というのは、今、複式になっているから、早く統合しないといけないという状況になっているんですけど、それをしだしたら、今後、丹波市の子供の人数が、爆発的に増えていくかということ、あまり考えにくいので、どこかでまた統合しないといけないという協議をすることになりそうな気がするので、それであれば、やっぱり今言われたように、丹波市の子供の、やっぱりことを考えると、いち早く子供のほう、適正というのを、何をもって適正というか分からないんですけど、クラス替えができるのか、そんな、一番いいやり方で、子供が学校に通えたらいいなというのを思うので、私としては、やっぱり1校にしたらいいという話よりも、1校にして、適正な環境で子供たちが学べるんだったら、それを目標にしたらどうかなって、ちょっと思いました。以上です。

(副委員長)

事務局のほうに伺いますが、1校にするかという話ですけど、予算等が、かなり難しいんではないかと考えているのですが、どうなんでしょうか。

(足立教育総務課長)

教育総務課長の足立です。予算のことは、今、ここでの議論ではないので、置いておいて、統合準備委員会として、今、校長先生方も御意見として言われた、将来1校を目指すことを前提にした上で、5校を2校、あるいは5校を3校とするのか、一旦はそのことは、将来課題としてあるけども、そこまで求めずに5校を2校、あるいは5校を3校として、それを先に進めるのかといった違いじゃなかったかなというふうに思っています。

一定、こども園単位での議論の枠組みというのは、委員さん方、過去の議論の中で御理解いただいておりますんじゃないかなというふうには思っております。その辺りも御確認いただけたらというふうに思います。

それと、先ほど言われた適正規模とはどういうものかということですが、言われたとおり、国のほうでは、2クラス以上ということですが、丹波市の場合は、丹波市の実情から見て、適正規模・適正配置という検討委員会も昨年度に議論をしてきました。その中では、小学校は1学年1クラスが維持できる規模を、丹波市でいう適正規模としています。

ですので、複式学級になれば、やはり統合の協議が必要になるのではないかと、市の方針としては示させていただいております。以上です。

(副委員長)

ありがとうございます。再々出ておりますが、昔と言っても、これからずっと遡っていくと、いろんな時代がありまして、現在に至っているわけですが、人口の動きによって、やっぱり大きく変わってきますので、先ほども意見がありましたように、今後のことを考えると、やっぱり目先のことよりも、今後のことも考えるというのは大事なことでと思います。各地区の役員さんやPTAさん、何かございませんか。

(委員)

三輪小学校PTAです。先日、参観日が三輪小でありまして、その後に保護者対象に、今の状況を説明する機会を設けました。そのときに、教育総務課の方に来ていただいて、説明をしていただいたんですけども、保護者としては、参加された方は12名ぐらいしかおられなくて、御意見も頂いたんですけども、その意見の中では、まとまった意見はなくて、資料を見ながらでしたら、やっぱり三輪だけが一旦残って、あと2校が統合というところに、

やっぱり着目はすごくされておられまして、そうなったときに、少し寂しい
なとか、今後はどうなるんだろうというような意見がすごくありました。

また、かたや、ずっと三輪はそのまま存続してほしい、そのまま通わせたい
というお子さんも、保護者の方もおられました。意見は本当にまとまらな
かったんですけども、結局、前も言いましたように、最終的にはやっぱり5
校を1校にする、今、皆さんが言われているようなことが進めていかれまし
たら、今の段階的なこととして、まず今は鴨庄と吉見が、まず統合されて、
そこからどんどん、いろんなことを考えていったときに、この適正規模・適
正配置というところで見ながら、皆さんと協議が進めていけたら、先は、最
最終的には5校が1校になるようなことになっていくんじゃないかと思いま
すし、それが一番ベストじゃないのかなと、子供にとっては、それが一番い
いんじゃないかなというふうには思っています。

(副委員長)

ありがとうございました。今、意見がありましたように、ずっと話をしま
して、三輪ではこの前に懇談会を持たれたということですね。その中でも出
ていましたように、行く行くはそういうこともあり得るということを計算し
ながらの、とりあえずの段階をクリアしていきたいということですね。

何回でも言いますけれども、各地区で学校がなくなるというのは寂しいと
思います。だけど、時代の流れということがありまして、寂しいからといっ
て、統合を先延ばしにしていくわけにはいかないと思います。これは私の考
えなんですけど、そこで、今後の地域づくりという話にもなるかと思うん
ですが、また各地区の役員さんなり、皆さんで協力していくしかないと思
うんです。

それは補足としまして、今出ております意見は、とりあえず各地区に分
かれていただいて、その地区ごとに話をさせていただきませんかということ
を言いたいですけども、どうでしょうか。各地区で、一応また、相談をして
いただいて、例えば、三輪と鴨庄と吉見とか、前山と竹田とか、それぞれ事情
があるかと思しますので、その辺の話も含めながら、何とか前に進んでい
ってほしいというように思います。どうですか、皆さん。

(委員)

各地区と副委員長がおっしゃっているのは、私のところでいうと、吉見地
区のこれだけで話をしてくださいということでしょうか。

(副委員長)

例えば、例として、三輪と鴨庄と吉見と含めてという意味です。

(委員)

ということは、こども園単位の地域でという意味合いですね。

(副委員長)

そうです。

(委員)

そうですか。勘違いしておりました。

(副委員長)

こちらこそ、ちょっと説明不足でございました。

(委員)

すみません、今日こうやって、今日はどんなお話し合いになるのかなとい
うところで、私も来させていただいたんですけど、統合準委員会の今後の流れを
事務局のほうで用意していただいて、今、ちょっと話し合いを各校区で持つに
するにしても、例えば、一番左側から二つ目にありますね、四角が四つ。こ
れはちょっと自分の校区ではないなとか、これで行ったらどうかとか、割
とそういうふうな絞る視点で話をさせてもらったら話がしやすいのかなと
思います。

今、ちょっと寄って、何を話し合ったらいいかなというところがわからな

いので、せっかくこの流れを作っていたいでいるので、校区ごとに集まるという話だったら、多分これはあり得ない、これは、うちはこのパターンではないかというようなお話をさせていただけるのならば、話がしやすいかなというようなことを思います。ちょっと進行についてのお話をしているかどうか分からないんですが、よろしくお願ひします。

(副委員長)

ちょっともう一回、確認ですが、先ほど言われたことなんですが、もちろん、こちらから提案しているのは、名前を出すと、吉見・鴨庄・三輪のパターンと、それから、前山と竹田のパターンのような形で、地域ごとにお話をさせていただけたらなということなんです。それはどうですか。

(委員)

校区ごとですか。それとも、こども園単位ですか。

(足立教育総務課長)

こども園単位ということ、今、言われたんです。

(副委員長)

そういうことです。

(委員)

そうですか。校区ではなく。こども園単位ということですね。あと、何か視点をはっきりさせたほうがいいのかと思います。せっかくこのフローを出していただいているので、そう思っているんですけど。集まっても、何を話し合っているのかと思ってしまうので。

(副委員長)

こども園単位で、今後の進め方について、ちょっと相談をしていただきたいということなんです。

(委員)

3校にするというのは、もう大体決まりですか。

(副委員長)

まだ、決定ではないですね。

(委員)

その方向で行くのはどうかということですね。

(副委員長)

はい。その方向に行ったらどうでしょうかということなんです。

(委員)

副委員長、5校を3校にというふうな話が、何か主体みたいになっているんですけど、三輪小学校の生徒数、児童数を見ていっても、10人ぐらいになるときもあるわけですね。そうしたら、その後、竹田、前山が一つ、それから、吉見と三輪と、鴨庄が一つ。かたや30人ぐらいのクラスであって、1校だけは10人ぐらいのクラスという状況が出てくるわけですね。先ほど委員がおっしゃったのは、今後増えるというふうなことが、あまり望めないんじゃないかなということだと思います。

だから、私にとって三輪地域は自分の校区ではないので、言うのはどうかと思いますが、三輪だけを一つ残すというのは、あまり賛成できないですし、それと、やっぱり私が最初から言っていますように、子供をどんな環境で学習させたいという、その親御さんの気持ち、この辺りもやっぱり大事にしたいといけないというふうなことを思います。そういうふうに、5校を2校、3校にする場合の環境、この辺りもやっぱり親御さんは、見ておかないといけないのではないかとということで、私が言いましたように、学校環境の見学会を先にしてから、対象地域で分かれて話をしたほうが、よりまとまりやすいのではないかと思います。

(副委員長)

環境というのは、どういう、具体的に言うと、学校見学ですか。

- (委員) 私が最初に言ったのは、施設（校舎）の見学というようなことを最初にしてはどうかということをおっしゃっていただきました。
- (副委員長) 確かに、学校はそれぞれ違いますのでね。そういうことは、また今後の検討するのも良いことだと思います。
- (委員) だから、そこら辺りを教育委員会はどのように考えられているのかなということ、ちょっとお聞きしたいです。
- (足立教育総務課長) 教育総務課の足立です。先ほど、それから前回の準備委員会でも校舎見学等をして、それから議論をすればという声は確かにございました。これは、議論をしながらでも、見学を希望される委員さんが多いのであれば、実施して現地を見ていただけたらいいと思います。
- (委員) いや、希望される数が多くても少なくても関係なく実施してはどうですか。
- (足立教育総務課長) 一人の委員さんからの提案としてお伺いさせていただきますが、準備委員会全体としてお決めいただいて、それが必要とあれば、実施していけばいいのではというふうに思っています。
- (副委員長) ただいま出ました意見の中で、皆さん、どうですか。例えば、人数に関係なく、とりあえず各地区を見たい、見学したいという方向の意見の方、おられますか。まだあの学校に行ったことがないとか。それぞれの距離が近いですから、そんなことはないかもしれませんが、とりあえず見るという形で、今後の計画としては、できないことはないと思うんですが、どうでしょうか。今のところないようですので、またそれは、ちょっと事務局のほうと相談いたしまして、返事をさせていただきますので、よろしくをお願いします。あと、皆さん、何か意見といいますか、もうちょっとこうしたらいいんじゃないかというようなことがございましたら、発言をお願いします。
- (委員) もう一度ちょっと確認させていただきたいんですけども、今の地区で話し合うということなんですけども、校区ごとということか、二つ、三つのパターンのように、竹田小学校、前山小学校、それから、吉見小学校、鴨庄小学校、それと、三輪小が一つ残ると。それまでの校区の中での話し合いをするのか、先ほど言われていましたように、竹田小学校と前山小学校の校区の人が1か所に集まって話をするのか、その辺のところをもう一度、ちょっと確認させていただきたいです。
- (副委員長) 先ほど出ていましたこども園単位と考えてもらったらいいかと思います。すなわち、三輪と吉見と鴨庄、それから、前山と竹田というパターンになるんですけども、とりあえずその単位で、今日は別としまして、後日、日を決めていただいて、そのパターンでちょっと話をしてもらいたいと思うんですが。
- (委員) 先ほどから幼稚園、こども園校区で話をされたらどうかということをおっしゃっているんですけども、例えば、それであれば、吉見、鴨庄、三輪が集まって、どういう進め方、何を話せばいいのか、その辺のことを言っていたかかないと、集まって、じゃあ二つになるよ、三つになるよ、いいですか、みたいな、それぐらいの話しかできないんですけども。どういった進め方が理想なのか、どういうふうに進めればいいのかというのを、何かあれば御教示い

ただきたいんですけども。

(副委員長)

分かりました。もっともだと思います。今、このパターンには出ますように、とりあえず集まっていたいで、その2校区と3校区で、学校と地域がどう進んでいけばいいのかというところを相談していただきたいという考えなんです。

別にそんな形をとらなくてもいいということであれば、別にいいんですが。

(委員)

それは、まず全体会議で部会では何を定めるのかということを決めてからのほうが話がしやすいと思う。急に集まっても、何を協議したらいいのかということがわからないと思います。

(船越教育総務課学校統合準備係長)

先ほどから、分かれて何を話すのかということのお話だと思うんですが、第2回の統合準備委員会にも示させていただいている、それぞれのパターンの中で、例えば、想定される統合場所、時期であるとか、校名はどうするのかといったようなところを協議いただかないと、実際に統合を希望される場合に、できないと思っていますので、もし分かれて話をすることがここで決定されれば、そういったことを中心に、話が進められると考えております。その中で、今言われた、見学をそれぞれさせてほしいというようなことでしたら、その機会を設けさせていただいて、施設の見学もしていただくように、こちらで手配させていただきますし、また、そのほかにも、例えば、アフタースクールはどうなるんだといったようなことも、この間、三輪小学校からはPTAの保護者の説明会でも出ておりましたので、そういったこともいろいろと議論をさせていただくことも、今後必要になるのではないかと考えております。

(副委員長)

何を協議するということを考えると少し難しくなるんですが、今、事務局のほうからありましたように、統合の場所のこととか、統合の時期のこととか、やはりそういうことも話しながら進んでいっていただきたいと思います。アフタースクールのこと少し話題出ましたが、恐らくまた出てくると思うんです。その辺りのことも含めたり、あるいは、地域と保護者の関係も含めたり、PTAの関係も含めたりしながら、それぞれの地域で話し合ってもらうほうが私はいいと思うんですがいかがでしょうか。

(委員)

今日の資料を事前に見させていただいていますが、私たち、鴨庄の校区でも、それを見て、議論をしていないわけです。学校はどう考えているか、保護者はどう考えているか、また、地域はどういうお話が出るのかということがすり合わせてない状態で、それぞれの校区が一緒になるというのは、ちょっと不安があります。一度、校区ごとに話をしたいというような意向で、先ほどからおっしゃっているのではないかと察しますけれどもいかがでしょうか。

(副委員長)

どうぞ。

(委員)

私も、校区ごとの話が必要なんじゃないかなと思います。なぜそう思うかということ、今の話の流れでいきますと、副委員長さんが5校から3校へと、お一人で、それであると決められているような感じを受けてしまいます。そもそも、これだけパターンがあるわけだから、一体、皆さんがどれを望んでおられるのか、あるいは望んでおられないのか、望んでいないものは候補から消すなどのことも行ってから、このパターンで考えるのだから、それにはこの範囲の地域で集まりましょうというようになったほうがいいんじゃない

いかなと思うんですが、どうでしょうか。皆さんが違和感を感じられるのはその辺りかと思ったんですけど。

(副委員長)

それは、校区ごとでもう一度話してくださいということですね。皆さんどうですか、その意見もありますけれども。今までヒアリング等も、校区ごとに集まって進めてきていますけれども、その校区ごとで集まった後、全体で集まるということですか。

(委員)

今、副委員長からお話がありましたけども、別に5校を3校にしていこうという決定したような話ではないと思うんですが、ただ、先ほどから出てますように、校区内で、5校を2校にするのがいいのか、5校を3校にするのがいいのかという話合いと、一番基になるのは、最終的な着地点としては、5校を1校にするというのを、一応、共通の認識として持っていた上で、5校を2校にするとか5校を3校にするといった話をどのパターンで行ったらいいんだろうかといことを各校区で話し合っていて、それを持ち寄って、それぞれの代表の方で、話合いをされた内容を発表されて、今後について考えていけばいいのではないかと思います。

(副委員長)

分かりました。とりあえず各校区で集まってもらって協議をしていただいた後、もう一度、皆さんで集まって協議結果を話し合ってはどうかということでした。

(船越教育総務課学校統合準備係長)

事前に資料をお配りする中で、皆さん、この流れを見ていただいていると思うんですけども、今、校区ごとの考えがまとまってないということでしたが、今ちょうど、校区ごとに席を配置しているんですけど、この後、一定時間を設けますので、一旦、分かれて、話をさせていただいて、その後、この4パターンの中から、自分のところの校区はどの枠組みで進めたいというようなことを発表していただくという時間をとらせていただけたらと思うんですが、どうでしょうか。

(副委員長)

今、事務局のほうから提案がありましたが、そういうパターンで校区ごとに集まっていただいて、時間を置きまして、相談していただいて、発表していただくということで、よろしいですか。

(船越教育総務課学校統合準備係長)

集まるというか、一定時間を設けますので、まとまらないということでしたら、それも一つの結果になりますし、この4パターンの中でこの枠組みが良いというのであれば、それはそれでいいと思います。

(副委員長)

そうでしたら、とりあえず校区ごとで、協議を行ってもらえますか。

(校区別協議)

(副委員長)

お疲れさまでした。今、それぞれに分かれて、議論をしていただきましたので、どんな議論になったかという発表を、お願いしたいんですが、順次、こちらからどうですか。三輪地区からお願いします。

(委員)

失礼します。三輪地区のメンバーの共通認識としましては、やはり早期統合を最優先といったところで、やはり5校を3校に、これは優先すべきかなという思いです。ただ、私自身、前回の第2回目のときにも申しましたとおり、その次ですね、段階的といったところで、5校を2校にするのか、5校を1校にするのか、こういったところの、やっぱり時期、ある程度の時期を

定めとかないと、恐らくこの資料の中にも書いてありますが、統合に対する協議を並行して、この並行というところが、ちょっと引っかかるといいますか、という思いです。といったところで、話はまとまっております。以上です。

(副委員長)

ありがとうございました。では、次に吉見地区お願いします。

(委員)

失礼します。吉見地区としましても、まず、5校を3校という意見でまとまっております。確かに子供たちには大勢の人数の中で学んでほしいという親の気持ちもありますし、また逆に、密にならない程度の教室の確保、行き渡る教育をしていただきたいなと思っておりますが、まず、先に5校を3校にしてから、その後は、5校を2校のほうで吉見地区は希望しております。また、最終的なゴールは2校や1校やというのは、また、副委員長が言われたとおり、こども園単位で協議していけたらなど、次回、思いますので、それをお願いしたいなと思っております。

(副委員長)

ありがとうございました。続きまして、前山地区、お願いします。

(委員)

前山地区は、話の中でも結構出ていましたけども、最終的には5校を1校にするということを前提として、その時期とか、そういうようなのは決めていただいて、それまでの間は5校を2校、5校を3校にする、前山としては2校なのかなと思うんですけど、という方向で進めていくのがいいんじゃないかという話で、今日はお話をしました。以上です。

(副委員長)

ありがとうございます。続きまして、鴨庄地区、いいですか、お願いします。

(委員)

失礼します。鴨庄の代表として、鴨庄の案としては、5校を3校に、一度統合してから、あと、また3校を2校にするという案がいいのかなと思えます。あと、決め方とか、1校にするとかというのは、また、これが決まってから、また段階的に決めていくほうが、話がすんなり進むと思うんです。今、全部、一緒に話をしているので、一応、段階的にちょっと話をするほうがいいのかなと思いました。以上です。

(副委員長)

ありがとうございました。それでは、最後にですけど、竹田地区、お願いします。

(委員)

竹田の地域で話し合ったのは、最終のゴールとしては1校という形を目指しながらも、今、直面している複式等の課題を解決していくために、その必要なところを段階的に統合していくというところが良いのではないかと思います。新しい何かを作るとかではなくて、経済的に、自然な形で、徐々に徐々に統合して行って、最終的には、目標としては、将来的には一つになっていくというのを見据えながら、統合していったらどうだろうかという形でまとまりました。以上です。

(副委員長)

ということは、第一段階としては、5校を3校ですね。

ありがとうございました。今、それぞれの校区ごとに、ちょっと相談をしていただきまして、発表していただきました結果、5校を3校にするのがいいんじゃないかと。それから、行く行くは一つになるようなことも考えてという意見が多かったかと思いますが、事務局のほう、どうですか。

(足立教育総務課長)

失礼します。教育総務課長の足立です。今、各校区でお話をされたところ、発表いただいた中では、この資料の2ページで言いますと、まず、やはり5校を2校、あるいは、5校を3校というところが多かったんですけど、段階的な統合をしつつ、将来の協議を並行していくというのが多かったのではなかったかなというふうに思います。一部、先に1校になる議論をしたほうがいい。そのような意見もあったかなと思うんですけど、いずれにしても5校を1校にいきなりというお話はなかったのではなかったかなということで、2ページの資料でいうと、どちらかというと、この下の黄色いほうからスタートして、1校の議論をしていくというところが多かったのではなかったかなというふうに思いますが、またそこは、一度、御確認を頂けたらというふうに思います。

(副委員長)

ありがとうございます。先ほどの発表内容から、ちょっと推測しますと、5校を3校にして、段階的に進んでいってはどうかというふうに受け止めましたが、そうですね。実際、そういう形で行くということですね。

そうしたら、事務局、今後のこととしましては、どういう方向でいきましょうか。

(足立教育総務課長)

失礼します。足立です。これは、この資料2ページ、今後の流れとして提案させていただいています。今、御意見としては、さっきも確認いただいたように、5校を3校にとか、5校を2校に段階的な統合をしつつ、将来の形も協議をしていきたいということであったんですが、その協議の仕方を今、全体とするのか、今言われた、5校を3校にというのが大半の意見だったら、その枠組みでの協議をしていくほうがスムーズではないかなという提案をこちらがさせていただいていますので、冒頭、副委員長のほうからも言われた、ずっと全体で協議をしていくのか、今あった5校を3校、あるいは5校を2校として行くのであれば、その該当校区の方々、こども園単位での議論を当面続けて、一定方向性が出たら全体会ですとかいうところにするほうがスムーズではないかなというふうに、こちらとしては考えておりますが、その辺りを、議論いただければと思います。

(副委員長)

今、2ページで言いますと、5校を3校にすると、どうかという方向の考えが多いようです。それを基にしまして、今日は無理なんですけれども、今後該当校区のほうで集まってもらって、協議をしていただく時間をとりたいなと思います。それにつきまして、皆さん、意見はありますか。とりあえず、その該当校区で、とりあえず1回集まってほしい。そこでまた、いろんな意見とか問題があれば、また話をしてほしいという意向なんです。

それにつきましては、該当校区でいつしますとかいうことを決定していただいたら結構だと思います。その後、またもう一度、この準備委員会にお集まりいただいて、発表していただいたらどうかというふうに進めたいと思いますけど、どうでしょうか。

(足立教育総務課長)

ちょっと校区という言葉が出ているので、誤解というか、混乱されているかと思います。こちらが言っているのは、こども園単位での協議ですので、吉見・鴨庄・三輪の3校区で一つの協議体で、5校を3校にする協議、あるいは2校になってもいいと思うんですが、その形と時期の協議をしていく。それから、竹田・前山で協議をして、場所とか時期とか、そういったところについて、いわゆる当事者同士で決めていただくというような話し合いを設けていただければというふうに考えております。

(副委員長)

分かりました。というところで、いわゆる今後、いつ話し合いをしてもらう

かというところを決めていただいて、今日はそこまでかなと言う感じもするんですけども、今言いました校区、3校区と2校区になるんですが、こども園単位で時間を、集合時間、日にちを決めていただくことは可能ですね。

(委員)

すみません、集まって話をするというのはいいと思うんですけど、どういう内容を、次に全体で集まって話すのかとか、そういうところってはどうなんですかね。そこで、認定こども園単位で話し合っ、その内容を今度、いつまた、こうなりましたとか、こういう意見出ましたとかというのを発表するのは、いつ頃になるんですかね。何かそういう、どういうふうに進めていくか聞いておかないといけないと思います。

(副委員長)

事務局、流れはどうなりそうですか。

(足立教育総務課長)

説明が不足してしまして、すみません。今言った竹田・前山の委員で協議をしていただく。その協議の内容は、統合の時期と場所とか、あるいは、そういうことが決まれば、今度、通学方法とか、だんだん細かくなってくるとは思うんですけど、まずもっては、時期と場所、それから、形態が決まってきましたので、その二つを中心に御議論いただければというふうに思います。鴨庄・吉見・三輪についても、話し合ってもらおうポイントはそこかなというふうに思っております。

ですので、この準備委員会の委員さんで議論していくというのは、何ら変わりはないというふうに思います。

(副委員長)

ということです。

(委員)

それなら、今日のように集まって、そこでまた分かれていったほうが、話がしやすいと思います。

(副委員長)

要するに、この場所で集まるということ、全員でこの場所に集まって、教育委員会もいるところで話をしたほうがいいんじゃないかということですか。

(委員)

そう思います。

(副委員長)

そういう形でよろしいですか。

とりあえず、今、各地区の意見を聞かせてもらった形では、5校を3校というのが多くて、そちらを希望されていると思います。それについての問題点や今後のこととや時期、いろいろ話をしてもらったらと思っているんですが、今の意見ですと、全員で集まれということなんですが、事務局、どうですか、そういう形にしてみてもは。

(足立教育総務課長)

委員さん方で、それで良いということであれば、一旦、全員で集まっていたら、今言ったように、該当校区ごととかいうか、竹田・前山と、その他の3校区で分かれて話をする、それを持った中で全体で話をするというほうが効率がいいという、御意見だったと思うんですが、それであれば、それもできないことではありませんので、いいとは思いますが。ただ、日程の調整上、竹田・前山だけで集まるという方が、調整がつきやすいのかなというように、こちらとしては思っています、いずれにしても、事務局は必ず行かせていただきます、別々の日にされても、それは事務局として出席はさせていただきますので、同日にやらないとできないということではないですが、委員さんが一堂に会して分かれてするほうがいいという御意見であれば、そ

れもいいのではないかなというふうに思います。

(副委員長) 今、説明がありましたように、事務局としては、いつでも説明に行き、話を聞きに行きますということです。先ほど委員さんのほうからありましたように、みんなが集まって、そこで分かれて話をするのもいいんじゃないかということもあります。これについての皆さんの意見を聞きたいと思います。

(委員) 賛成です。

(副委員長) ほかの方はどうですか。

(委員) これだけの人数だから、個別に調整をするのが大変だと思います。

(副委員長) そういう意見が出ております。ほかにはありますか。どうぞ。

(委員) 手間かもしれませんが、事務局も双方に同じような話をしていただかないといけないと思いますし、委員長のほうも、次は、次回は来られると思いますので、別々に来ていただいて、同じような条件の話をしてはどうかと思います。

(副委員長) ということは、全員、ここで集まってということですか。

(委員) 別々開催して、委員長さんも両方に同席されてはどうかと思っています。

(副委員長) その各地区の会議にですね。それは事務局さん可能ですか。

(足立教育総務課長) 地区ごとに分かれて話をするとなったときに、委員長との日程調整に時間を要することにはなるかなと思います。先ほど言われたように、まず全体で集まって、次は、全体で集まって分かれるんだということであれば、全体会としての調整をして、その次の次から分かれるなど、いろいろな方法があると思うんです。そこは委員さんの中で十分、検討いただければというふうに思います。

(副委員長) それでは、ちょっと採決といいますか、意見を聞きたいんですが、先ほどから一度に集まったらどうかという賛成の意見も出てますが、ほかの方、皆さんどうですか。それがよろしいか。それでもよろしいですか。

(「異議なし」の声)

(副委員長) 分かりました。事務局、もう一度全体会をしてから分かれて協議を行うということで、日程調整をお願いします。

(足立教育総務課長) 失礼します、足立です。川上委員長と確認をしますが、日程としては、11月24日水曜日に第4回という形で進めさせていただいて、冒頭、全員集まっていたところで分かれるという方向というふうに考えています。

(副委員長) 今、事務局から発表がありましたように、11月24日水曜日ですね、時間は19時30分ということで、もう一度お集まりいただくということになりました。そういう形でよろしいですね。

(足立教育総務課長) それでは、本日も熱心に御議論いただきまして、ありがとうございました。

(委員)

すみません、1点だけ確認をお願いしたいことがあるんですが、よろしいですか。前回の会議のときに、年をまたげば1年延びるといったような話があったと思うんです。ですので、これが次回は11月24日と決まったんですけども、できればその結論を年内に出されたほうが、今の皆さんの意見の中にも、スピーディーにというようなことがございましたので、できるだけ年内に決めていくような方向ではいかがかなというふうに思います。以上です。確認と意見です。

(副委員長)

ありがとうございました。事務局、どうですか、それは。

(足立教育総務課長)

それは、先ほど言われたとおり、前回も私のほうからも言わせていただきました。早期の統合で、その早期というのが、令和5年ということを目指されるのであれば、年内に一定の方向性、結論を出していただきたいというのは、今も変わりはありませんので、そこも視野に入れた協議が必要だというふうに思います。

次第

5 その他

(足立教育総務課長)

それでは、その他というところでは、特にこちら側からはございませんが、今後、分かれての議論ということになりますので、この統合準備委員会の要綱について、必要な改正は事務局のほうでさせていただいて、また次回に提示をさせていただきたいというふうに思っております。

次第

6 次回委員会の日程について

(足立教育総務課長)

6番につきましては、先ほど決定を頂きましたので、次回は11月24日水曜日19時半から、この会場でということをお願いします。

次第

7 閉会

(足立教育総務課長)

最後に閉会のあいさつを、木寺副委員長でよろしく申し上げます。

(副委員長)

それでは、皆さんありがとうございました。いろんな意見、出していただきました。そして、次回が11月24日ということに決定いたしました。先ほど意見が出てましたように、できるだけ早くということが皆さんの思いかと確認をしております。次回につきましては、もう一歩も二歩も進む形でいきたいと思っておりますので、そのつもりでお願いします。

ということで、本日は終了といたします。どうもありがとうございました。